

教員免許更新講習に認定された はじめてのボールルームダンス(社交ダンス) 指導者養成講習会



子どもゆめ基金(公益財団法人)助成事業

第1期講習会・関東地区

平成21年8月2日(日)・3日(月) / 中央区立総合スポーツセンター

教員免許講習として 全国で40名が参加

平成21年度の「JBDFはじめてのボールルームダンス(社交ダンス)指導者養成講習会」の第1期講習会が関東地区を皮切りに全国6地区で行なわれました。受講者は6地区合わせて215名。本講習は本誌前号でご報告したように、この3月に文部科学省より「教員免許更新講習」に認定され、全国から40名の学校の先生が「教員免許更新講習」として本講習を受講しました。

「スポーツ団体で唯一、教員免許更新講習の認定を受けたことは連盟にとって大変名誉なこと。だからここそこで気を引き締めて、しっかりとした講習を行うことが大事」という佐伯年詩雄先生(平成国際大学教授、JBDF理事で本プロジェクト委員)の言葉どおり、プロジェクト委員会では会議を開いて講習内容を再検討。「本質的には変えていませんが、免許更新講習に値する講習であるべく、講習を受けた方にダンスの教育的な価値や指導法など、

できるだけクリアなものをもって帰っていただけるように、いろんな意味できちんと整理をしました」(松村有希子プロジェクト委員長)

中央区の総合スポーツセンターで行なわれた関東地区講習会には定員を大きく超える81名が受講。うち学校の先生は42名を数え、本講習会がスタートして初めて学校教員が過半数を超えました。これは免許更新で受講する先生だけでなく、免許更新はまだ先生の参加が予測以上に増えたことによります。この傾向はほかの地区も同じで、教員免許講習に認定された効果がさつそく現れたかたちとなりました。

実践的な講習

講習時間は1期、2期とも2日間10時間、合わせて20時間となつています(教員免許更新講習の規定は18時間以上)。1期の内容は、

講義…60分。テーマは「生涯学習とボールルームダンス」(佐伯先生)。
実技講習…チャチャチャ、ワルツ、ブルース、ジルバの4種目。東京会場講師は松村委員長はじめ、副

委員長の堀口宏先生、背黒誠先生・石塚紀子先生・島輝子先生・村田恭子先生・四本紀代美先生の計7名が担当。

準備体操からスタートした実技講習は、これまでと同じく、リズムエクササイズに重点を置いて行なわれました。音楽に合わせて手

をたたいたり、足踏みしたり、身体中でリズムをとることを繰り返してから、基本ステップの講習へ。最初はバラバラだったステップも、繰り返していくうちに全員の動きが合つていきました。

2日目の午後にはグループにわかれ、それぞれ工夫したものを発表するという模擬授業が行なわれました。

「これから皆さんに小学校の3、4年生くらいになつていただきます。チャチャチャを始めて6時間のうちの3時間目くらいの想定です。それまでに何をやってきたかという、基本になる音楽、リズム、基本になる動き、リズムエクササイズ。もうこのことがチャチャチャになるということ。授業のねらいはみんな協力しているいろいろな動きを工夫し、音楽に合わせて楽しく踊る



↑模擬授業の様子。グループごとに「工夫」を発表

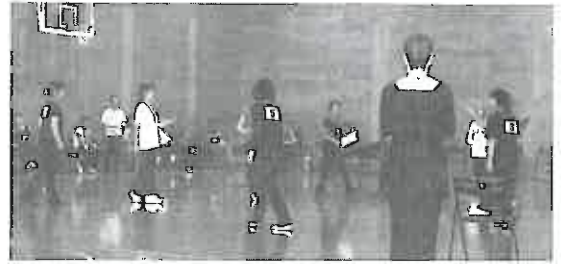
ことです」と堀口宏先生が授業の概要を説明。

グループ別に分かれて相談をし、練習を行なつてからグループごとに発表会を行いました。「オーソー」と掛け声を合わせてから踊りだすグループ、フォーメーションのような動きをみせたグループなど、声援も飛んで楽しい雰囲気の中模擬授業が進んでいきました。

初の免許更新講習に 文科省の視察

教員免許講習になつて一番大きく変わったのは、2日目の実技講習が終わつた後に「実技試験」が行なわれたことです。教員免許講習として受講した7名の方は各々背番号をつけて、習ったばかりの4種目をそれぞれリズム、シャド、ペアで踊り、3名の試験官が

→初めて行われた実技試験



採点を行ないました。緊張モードのなか、初めての「教員免許講習・実技試験」が終了すると、見守っていたダンス仲間から大きな拍手が沸き起りました。

この日、文科省から教員免許更新新制度の担当部署である初等中等教育局・教職員課教員免許企画室免許係長の田井祐子氏と認定係長の宮川菜津子氏が視察に見えており、試験が終わると笑顔で拍手を送っていました。

「はじめてのボールルームダンス（社交ダンス）講習会」では、誰一人ダンスシューズを履いていません。スポーツシューズでいつせいにライズする光景は、学校教育へのダンス導入が着々と進んでいることの象徴のようでした。



↑講習を熱心に見つめる文科省の田井係長（写真右）と宮川係長（写真左）



↑スポーツシューズでのライズも様になってます



↑リズムの説明が書かれた大きな用紙が毎回活用されます

学校学習創造支援プロジェクト委員会

はじめてのボールルームダンス(舞)指導者養成講習会

平成21年度の第2期講習会が終了しました

～子ども夢基金(独立行政法人 国立青少年教育振興基金)助成事業



体育館にリズムエクササイズの大きな輪ができました!

文部科学省より教員免許更新講習に認定された「はじめてのボールルームダンス(社交ダンス)指導者養成講習会」の第2期講習会は、10月17日・18日に長崎西洋館で行なわれた九州地区講習会を皮切りに全国6地区で順次開催され、250名余りが受講しました。

◎九州地区：10月17・18日

(長崎市・長崎西洋館2F展示ホール)

◎北海道地区：10月31日・11月1日

(札幌市・ダンススタジオ友)

◎東北地区：11月7・8日

(仙台市・アクアホール)

◎近畿・中国・四国地区：11月14・15日

(神戸市・三宮クレアホール)

◎中部地区：11月21・22日

(一宮市・一宮スポーツ文化センター)

◎関東地区：11月28・29日

(東京都・中央区立総合スポーツセンター)

第2期・関東地区講習会レポート

平成21年11月28日(土)・29日(日)

中央区立総合スポーツセンター

第2期講習会の最後となった関東地区講習会は、55名の受講生を迎えて行なわれました。講習時間は第1期講習会と同じ、2日間で10時間。講習1日目は学校学習プロジェクト委員の佐伯年詩雄先生(平成国際大学教授・筑波大学名誉教授)の講義からはじまりました。「ボ

ールルームダンスの教育的課題」をテーマにした講義の締めくくりに、佐伯先生は福祉先進国デンマークの老人施設を調査訪問したときの話をされました。それは、スポーツ・余暇活動に対する日本人と欧米人の認識の違い。

「世界一長寿の日本人がなぜ来たのか」と言われましたが(笑)。彼らの話は、日本人は健康のためにスポーツをするのか、自分たちはスポーツをしたいから健康であろうとする、ということなんです。ダンスは人と人との和、付き合いを良いものにしますが、良くするためにダンスがあるわけではないんです。楽しむことで、結果として人間関係も良くなる、そのことを間違えないでいてください」

◎試験はやっぱり緊張

第2期の実技講習はサンバ、クイックステップ、ルンバ、タンゴの4種目。東京会場の講師は松村委員長、堀口宏副委員長はじめ堀口さんと子、石塚紀子、島輝子、村田恭子の6名の先生が担当しました。

広い体育館でのびのびと準備体操を行なうと、早速、サンバの実技講習からスタート。第2期でも、まずその種目の音楽の理解、リズムエクササイズに重点がおかれました。音楽に合わせて手をたたき、足踏みをする

る、そして身体中でリズムをとりながら歩く。全員で手をつなぎ、体育館いっぱい大きな輪になってのリズムエクササイズ。笑顔になって、最初はバラバラだった動きが講習の終わるころには揃うようになっていました。少し慣れたところで、今回もグループ分けを行なう講習が進んでいきました。

両日とも実技講習の後半には「教員免許更新講習・実技試験」が行なわれました。背番号をつけ、習ったばかりの4種目をリズム、シャドゥ、ペアで踊ります。3名の試験官が採点し、1期、2期の試験結果を総合して最終評価がつけられました。

新学習指導要領で、武道とダンスが保健体育の必修となったことは本誌でもお伝えしてきました。特に高等学校の指導要領では「社交ダンス」という言葉が明記され、中学校、小学校の指導要領には社交ダンスという文言こそはありませんが、リズムダンスの解説の中には「サンバ」という言葉が書かれています。

「これまではダンスを採り入れたいと思っても、校長先生や保護者の理解が難しいために断念していた先生もおられたと思います。それが堂々と学校へ入る道ができてきています。そしてJ B D Fには、学校から要請

があればすぐに対応できる体制ができています。政権交代によって教員免許更新制度の廃止が言われていますが、たとえそうだとしても、いい変わり際になっていくことは間違いないありません。ボールルームダンスがいい形で学校に入っていくチャンスですから、学校キャラバン隊の活動を含めて理解者・協力者を増やす努力を続けていきたいと思っています」

(松村有希子委員長)



試験風景。試験をする側から受ける側に

準備体操は大事です



手と足でリズムをとる受講生たち